

第 4 章

庁内エコプランの進捗状況

平成 22 年度の「庁内エコプラン」（市の事務・事業で環境保全に配慮すべき施策）の進捗状況及び事務・事業に伴い発生した温室効果ガスの排出状況を報告します。

本文中、※印の付いている用語の解説は、資料編 P.76 用語解説をご覧ください。

1 庁内エコプランの推進

庁内エコプランは、市の事務・事業における温室効果ガスの削減目標及び環境保全に関して、配慮すべき事項を定めた計画で、環境基本計画を推進するための計画であるとともに、「地球温暖化対策の推進に関する法律」の第20条の3に基づく「地方公共団体実行計画」としても位置付けられています。計画の対象期間は、平成20年度（2008年度）から平成24年度（2012年度）までの5年間としています。

本章では、平成22年度の事務・事業に伴い発生した温室効果ガスの状況と、庁内組織・施設等を対象とした庁内エコプランの進捗状況を整理しています。

■ 温室効果ガスの総排出量の削減目標

平成24年度を目標年度とし、温室効果ガスの総排出量を平成18年度レベルより5%削減し維持することを目標としています。

《 温室効果ガス総排出量の削減目標 》

年 度	温室効果ガス排出量	削減目標
平成18年度（基準年度）	4,613,695 kg-CO ₂	-
平成24年度（目標年度）	4,383,010 kg-CO ₂	5%

■ 「庁内エコプラン」の取組み

庁内エコプランでは、目標達成のために職員一人一人が取り組むべき6項目・33行動を定めており、温室効果ガス排出量の削減に向けて、率先した取組みを促しています。

しかし、平成22年度の温室効果ガス総排出量（二酸化炭素換算）は、旧印旛村及

び旧本埜村との合併により、前年度より86.5%増加し、基準年度（平成18年度）比で93.4%の増加となっています。

今後は、合併後の新市に対応した新しい目標値を早急に設定するとともに、職員一人一人の温室効果ガス削減に対する意識高揚を図り、事務・事業から発生する温室効果ガス排出量の削減に努めていきます。

- ① グリーン購入の推進
- ② 公用車の適正な維持管理の推進
- ③ 省エネルギー・省資源対策の推進
- ④ 廃棄物の減量化・資源化の推進
- ⑤ 庁舎・施設等の適正な維持管理の推進
- ⑥ ノーカーデーの推進

■ 対象とする組織・施設

区 分	組 織 ・ 施 設 等
市庁舎	【総務部】 総務課、秘書広報課、情報管理課、管財課、防災課、行政管理課 【企画財政部】 企画政策課、財政課、まちづくり推進課 【市民部】 市民活動推進課、市民安全課、市民課、市民税課、資産税課、国保年金課 【環境経済部】 経済政策課、農政課、環境保全課、クリーン推進課 【健康福祉部】 社会福祉課、介護福祉課、子育て支援課、保育課 【都市建設部】 都市計画課、都市整備課、建築課、土木管理課、建設課、下水道課 【教育委員会】 教育総務課、学務課、指導課、生涯学習課 【その他】 会計課、議会事務局、選挙管理委員会事務局、監査委員事務局、農業委員会事務局
支所	【印旛支所】 総務課、市民福祉課、地域づくり課 【本埜支所】 総務課、市民福祉課、地域づくり課 【水道部】 水道課
小学校 中学校	【小学校】 木下小学校、大森小学校、小林小学校、小林北小学校、永治小学校、船穂小学校、木刈小学校、小倉台小学校、内野小学校、原山小学校、高花小学校、西の原小学校、原小学校、六合小学校、宗像小学校、平賀小学校、いには野小学校、本埜第一小学校、本埜第二小学校、滝野小学校 【中学校】 印西中学校、小林中学校、船穂中学校、木刈中学校、原山中学校、西の原中学校、印旛中学校、本埜中学校、滝野中学校
幼稚園 保育園	【幼稚園】 大森幼稚園、瀬戸幼稚園、本埜幼稚園 【保育園】 木下保育園、大森保育園、木刈保育園、内野保育園、高花保育園、西の原保育園、もとの保育園
学童 クラブ	・木刈学童クラブ ・原山学童クラブ ・木下学童クラブ ・小倉台学童クラブ ・西の原学童クラブ ・高花学童クラブ ・内野学童クラブ ・大森学童クラブ ・原学童クラブ ・小林学童クラブ ・いには野学童クラブ ・平賀学童クラブ ・滝野学童クラブ ・原第2学童クラブ ・永治学童クラブ ・小林第2学童クラブ
出先 機関	【出張所】 中央駅前出張所、牧の原出張所、小林出張所、船穂出張所、岩戸出張所、平賀出張所、滝野出張所 【その他】 中央保健センター、総合福祉センター、保健福祉センター、印旛保健センター、本埜保健センター ふれあいセンターいんば、 高花学校給食センター、牧の原学校給食センター、印旛学校給食センター、 本埜学校給食センター、滝野学校給食センター、 中央駅前センター、小林コミュニティプラザ、中央公民館、中央公民館宗像分館、 ふれあい文化館、そうふけふれあいの里、印旛公民館、本埜公民館、 文化ホール、大森図書館、小倉台図書館、 本埜ファミリア館、資料整理作業所、印旛歴史民族資料館、印旛医科器械歴史資料館 サザンプラザ、フレンドリープラザ、永治プラザ、船尾コミュニティセンター、市民活動支援センター 松山下公園、いんざい産学連携センター

2 温室効果ガスの排出状況等

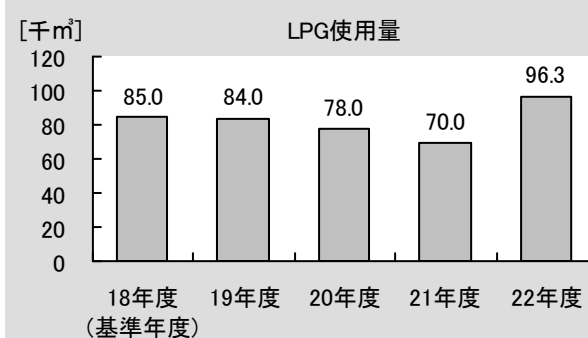
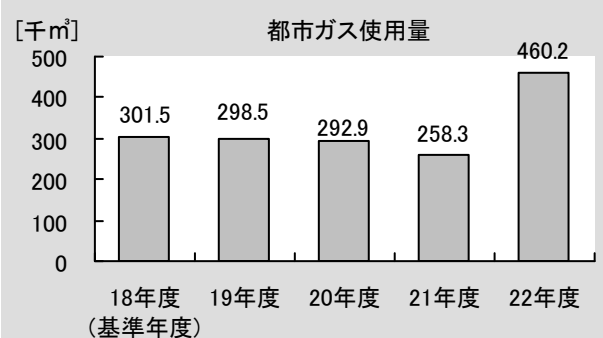
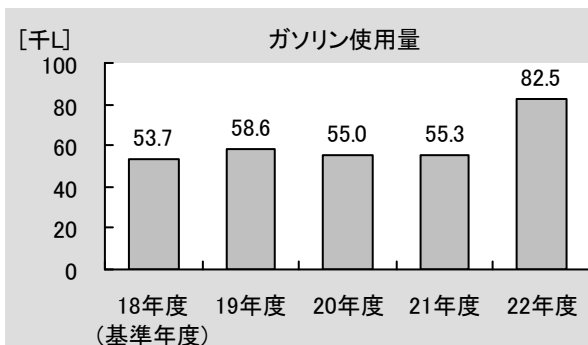
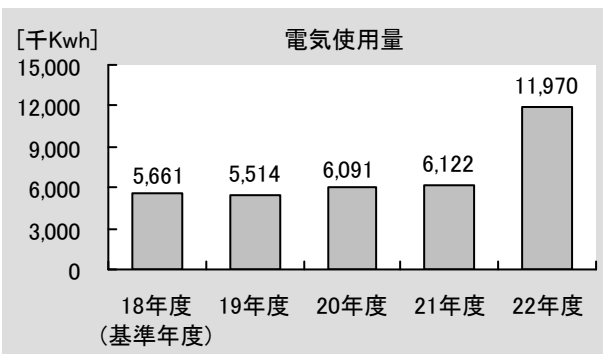
■ 燃料等の使用状況

平成 22 年度は、旧印旛村及び旧本埜村との合併により庁舎や学校等の施設が大幅に増加し、これに伴って燃料等の使用量も多くの項目で増加しました。特に増加割合が大きかったのは、軽油（113.7%増）、電気（95.5%増）及び都市ガス（78.1%増）でした。

《 燃料等使用状況一覧 》

項 目	年度	単位	年間使用量			使用量 対前年比
			平成 18 年度 (基準年度)	平成 21 年度	平成 22 年度	
燃料使用量	ガソリン	L	53,666	55,253	82,506	49.3% 増
	灯油	L	67,060	106,858	182,021	70.3% 増
	軽油	L	6,591	5,208	11,130	113.7% 増
	A重油	L	0	0	14,900	－
	LPG	m ³	85,041	69,970	96,279	37.6% 増
	都市ガス	m ³	301,476	258,339	460,197	78.1% 増
電気使用量		kWh	5,661,218	6,122,189	11,970,135	95.5% 増
自動車 走行量	ガソリン車	km	476,600	464,346	946,114	103.8% 増
	軽油車	km	4,863	16,120	4,966	69.2% 減
水道使用量		m ³	154,479	133,901	192,771	44.0% 増
下水処理量		m ³	140,530	120,762	168,071	39.2% 増
紙使用量	普通紙	枚	89,670	92,500	166,352	79.8% 増
	カラーコピー用紙	枚	97,730	65,093	78,510	20.6% 増
	再生紙	枚	4,856,862	12,301,166	14,729,020	19.7% 増

《 燃料等使用状況 》



■ 温室効果ガスの排出状況

平成22年度の温室効果ガス総排出量（二酸化炭素換算）は、施設数が増えたことに伴う燃料等使用量の増加を受け、前年度より86.5%多い8,924,868 kg-CO₂となりました。基準年度（平成18年度）との比較では93.4%の増加となります。

排出源別に見ると、電気（74.4%）、都市ガス（10.7%）、液化石油ガス（LPG 6.7%）、灯油（5.1%）の順に多く、この4項目で全体の約97%を占めています。

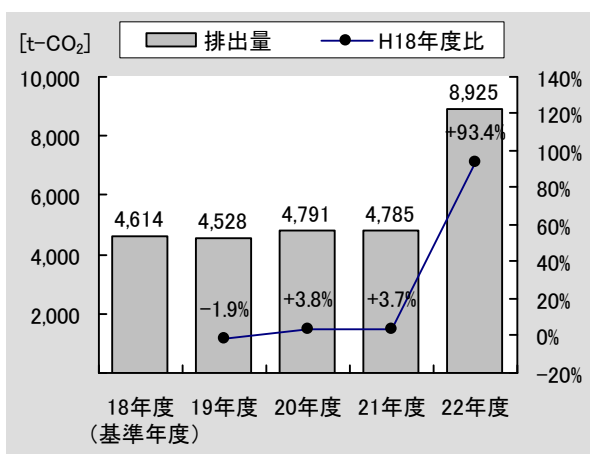
なお、旧印西市を対象として策定した現行の市内エコプランでは、合併して施設数が増加した現在の印西市における温室効果ガス排出状況を適切に評価することが出来ないため、市では早急に新しい基準年度と削減目標を設定するように検討を進めています。

《 温室効果ガス総排出量の推移 》

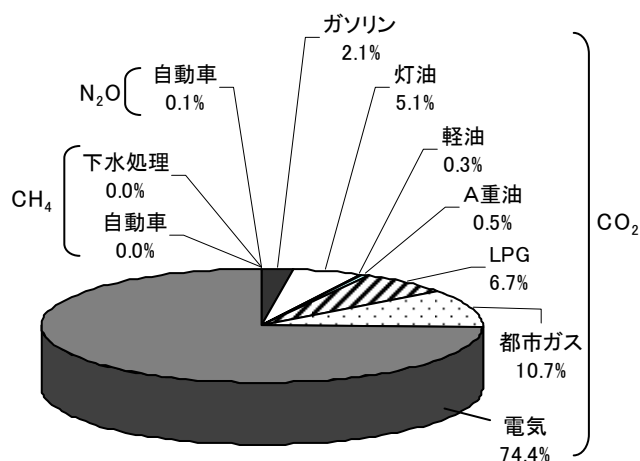
活動の種類 温室効果ガス区分		年度	年間排出量(kg-CO ₂)			活動種類別 温室効果 ガスの割合
			平成18年度 (基準年度)	平成21年度	平成22年度	
二酸化炭素	ガソリン		124,505	128,187	191,414	2.1 %
	灯油		166,979	266,076	453,233	5.1 %
	軽油		17,267	13,646	29,161	0.3 %
	A重油		0	0	40,379	0.5 %
	LPG		528,955	435,216	598,853	6.7 %
	都市ガス		927,069	537,344	957,209	10.7 %
	電気		3,141,976	3,397,815	6,643,425	74.4 %
メタン	自動車の走行		119	116	230	0.0 %
	下水の処理		2,597	2,232	3,106	0.0 %
一酸化二窒素	自動車の走行		4,226	4,124	7,858	0.1 %
合 計			4,613,695	4,784,755	8,924,868	100.0 %
基準年度からの増減率			-	3.7% 増	93.4% 増	

備考) 市内エコプランにおいては対象とする温室効果ガスを二酸化炭素としていますが、社会情勢を考慮して自動車走行、下水処理に伴い発生するメタンと一酸化二窒素を対象ガスに含めています。

《 温室効果ガス総排出量の推移 》



《 平成22年度温室効果ガス排出量の割合 》

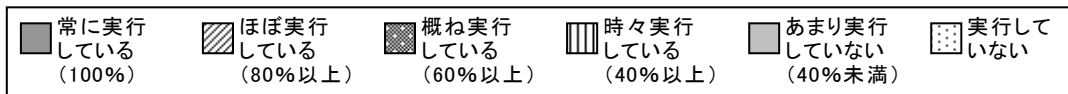


3 取組みの実施状況

印西市では、平成 15 年度以降継続して市職員に対する庁内エコプランの周知に努めてきました。

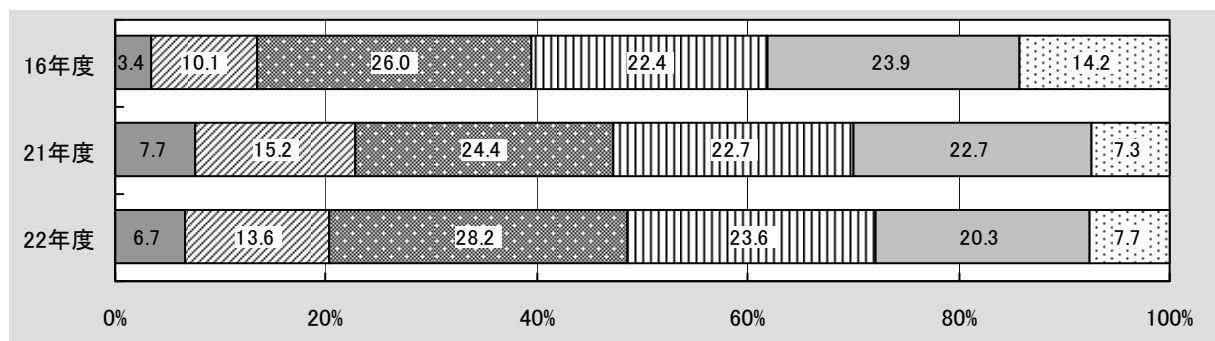
平成 22 年度に全職員を対象として実施した自己行動調査の結果を、取組み初期（平成 16 年度）と比較すると、ほとんどの項目で「常に実行している」の割合が増加しています。

取組みの実施状況の変化

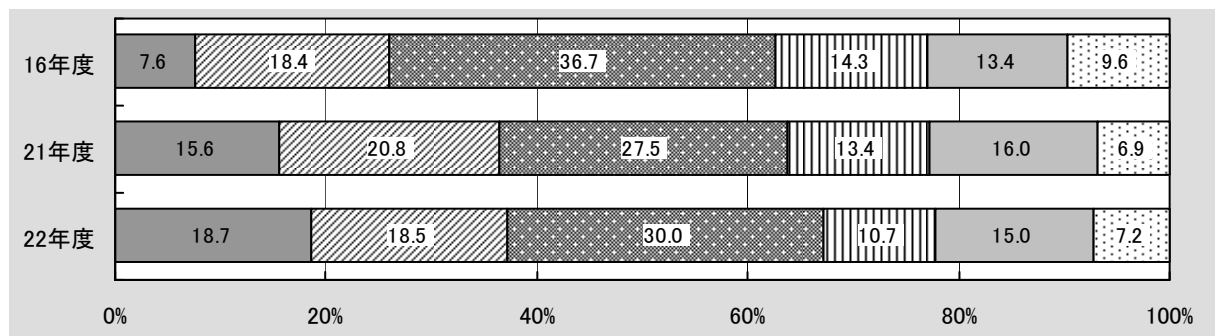


■ グリーン購入の推進

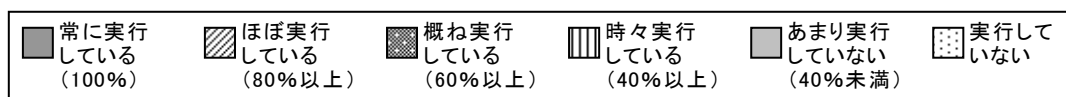
● エコマーク商品※を優先的に購入している



● エネルギー効率の良い OA 機器の導入を心がけている

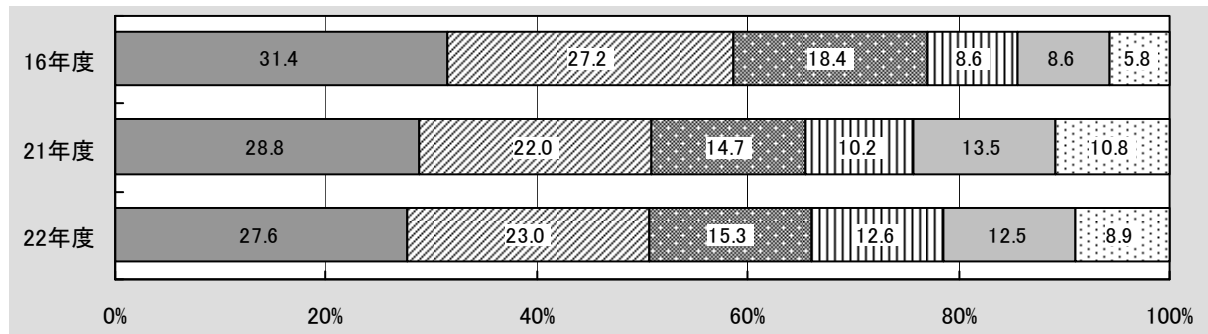


グリーン購入の推進に関する取組みでは、「常に実行している」と「ほぼ実行している」を合わせても 4 割以下で推移しています。品質や価格だけでなく、環境負荷の低減に配慮した購入先を選ぶ「グリーン購入」の推進は、事業者の環境意識向上にも寄与するため、より一層の推進を図っていきます。

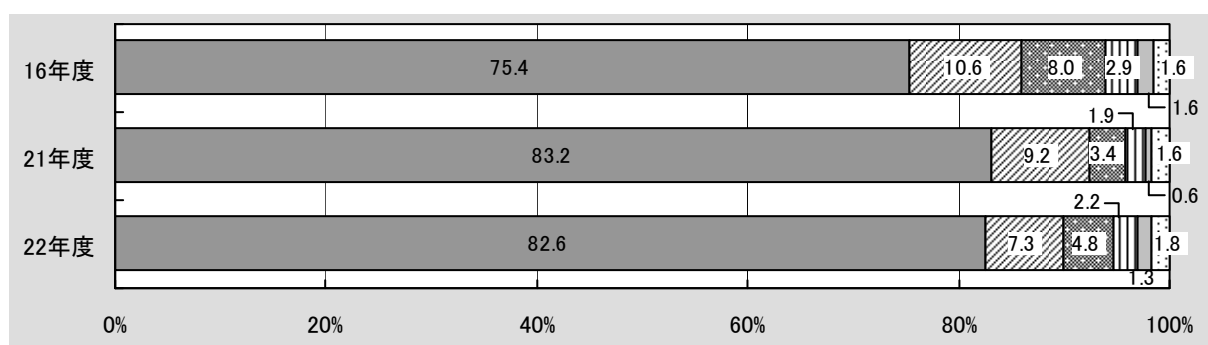


■ 公用車の適正な維持管理の推進

● アイドリングストップを実施している



● 公用車 1 台ごとに走行距離・給油量等を記録している

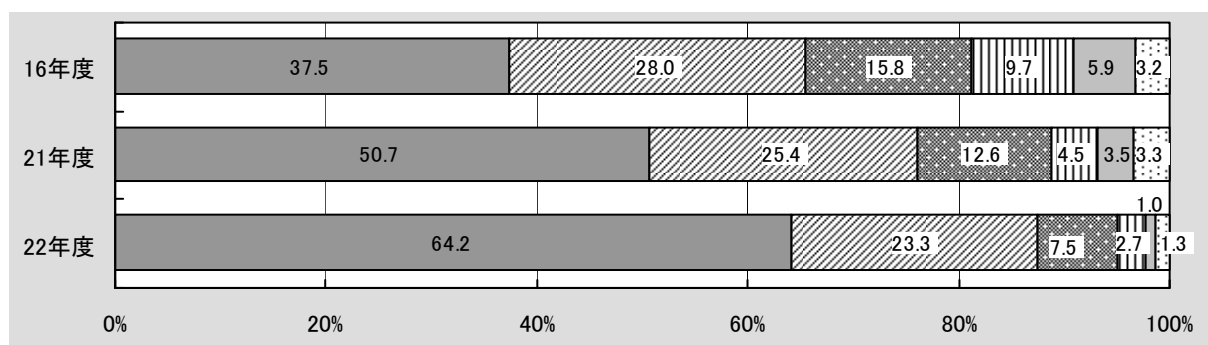


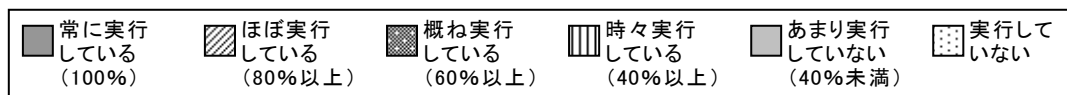
走行距離や給油量の記録は、「常に実行している」と「ほぼ実行している」の合計が約9割となっており、行動が定着していることが分かります。

一方、アイドリングストップの取組み割合は減少傾向にあり、職員の意識向上と取組み強化を求めます。

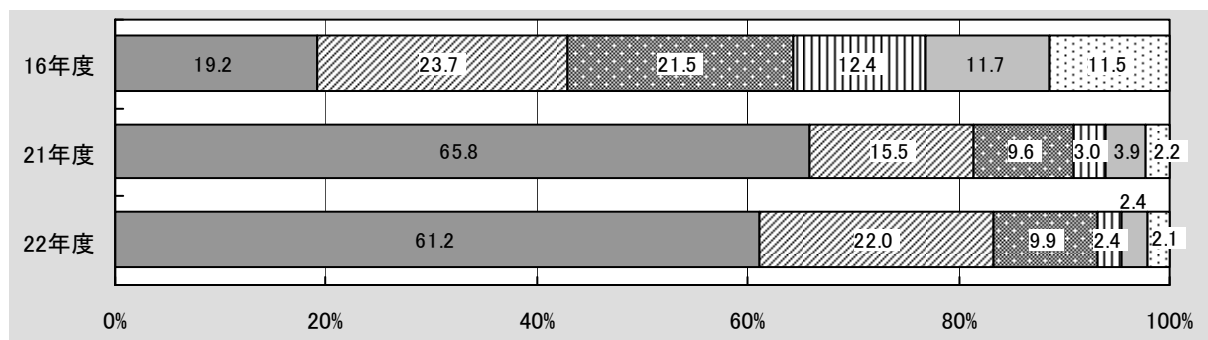
■ 省エネルギー・省資源対策の推進

● 昼休みの消灯、時間外の不要箇所の消灯を実施している

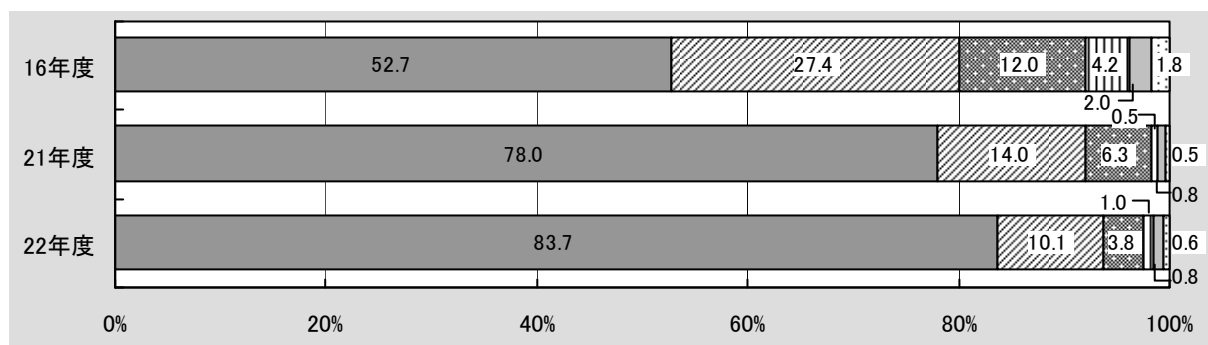




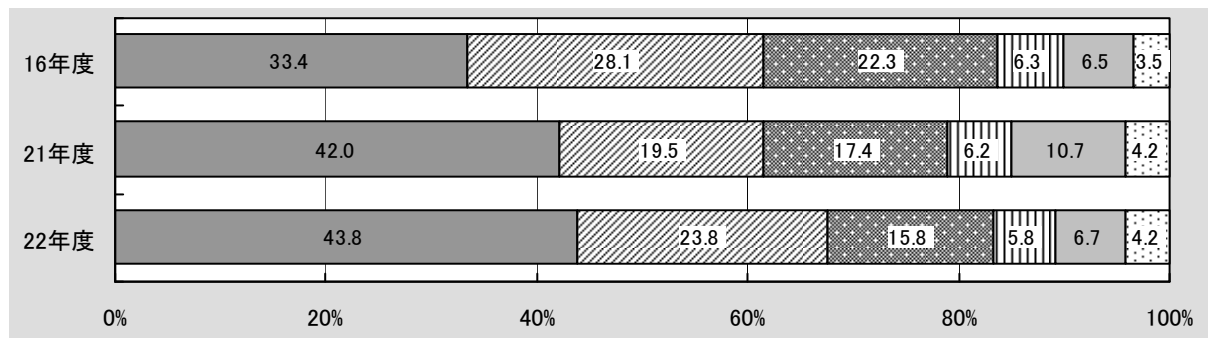
● パソコンは未使用時には電源を落とすように心がけている



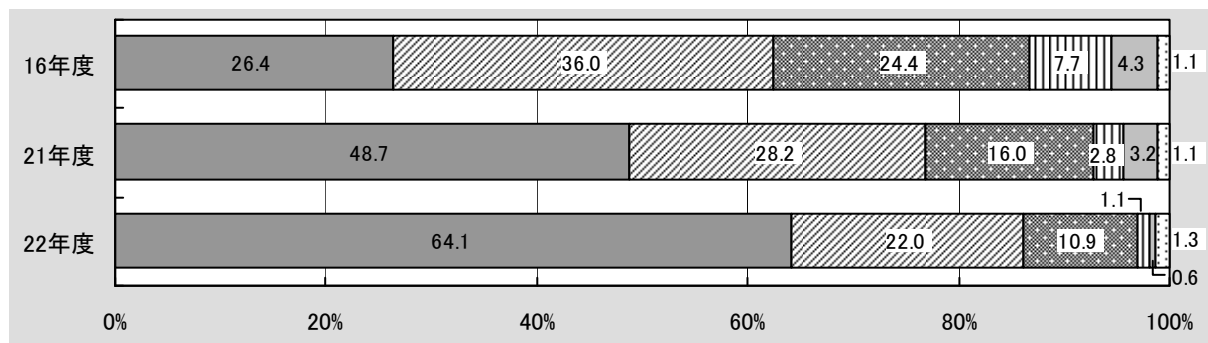
● トイレ・給湯室・更衣室等は使用の際に点灯するようにしている

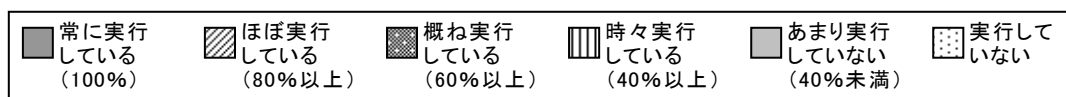


● ノー残業デーを実施している

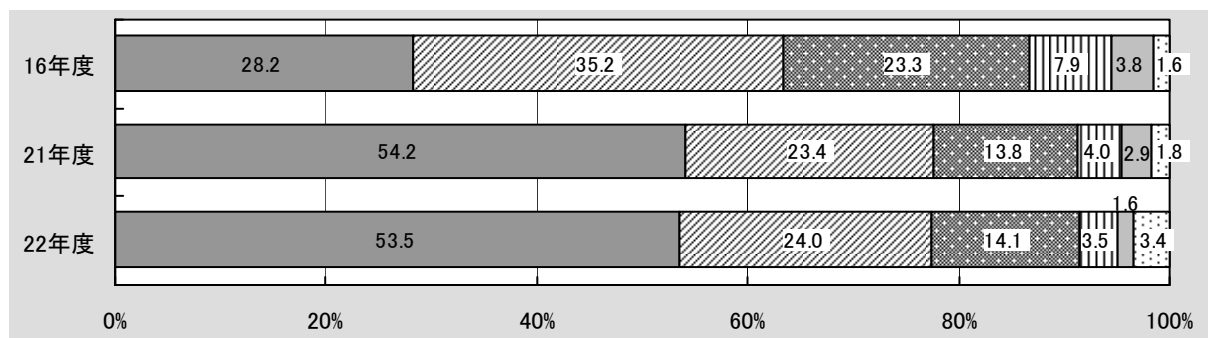


● 暖房・冷房は適切な温度調節を心がけている

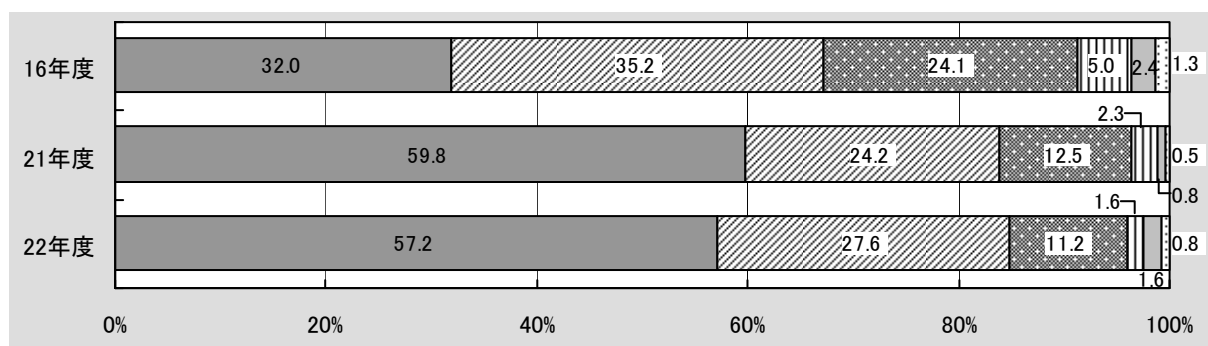




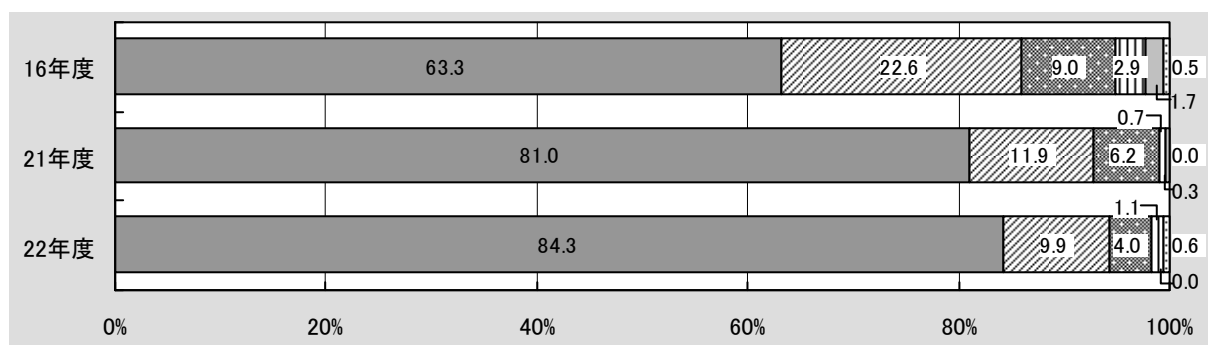
● 夏季にはブラインドを閉める等、室温の上昇を防ぐよう努めている



● 日常的な節水を心がけている

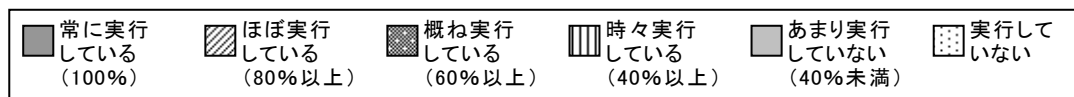


● 荷物の搬入・搬出以外ではエレベーターを使用しない



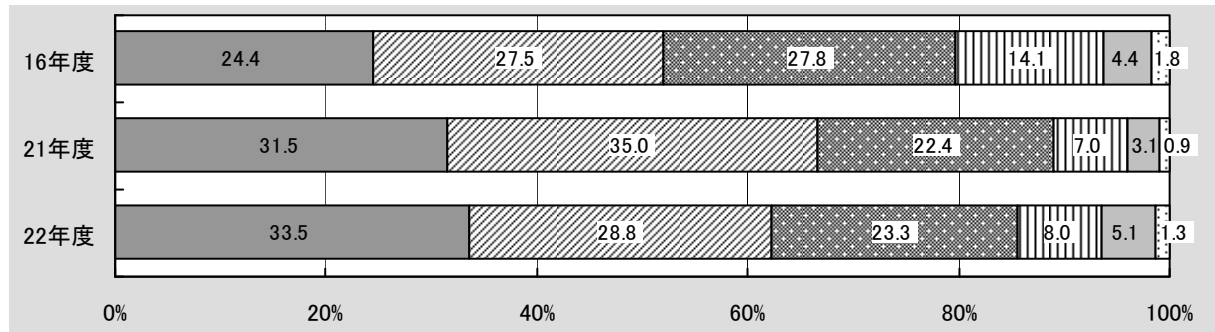
省エネルギー・省資源対策への取組みはいずれも定着しつつあり、特に「昼休みや不要箇所の消灯」、「トイレ・給湯室等の電源OFF」、「冷暖房の適切な温度調節」、「エレベーターの使用自粛」といった日常的な省エネの取組みは、庁内エコプランをはじめてから年々向上しています。

今後は、比較的取組みが遅れている「ノー残業デーの実施」についても、積極的に推進していきます。

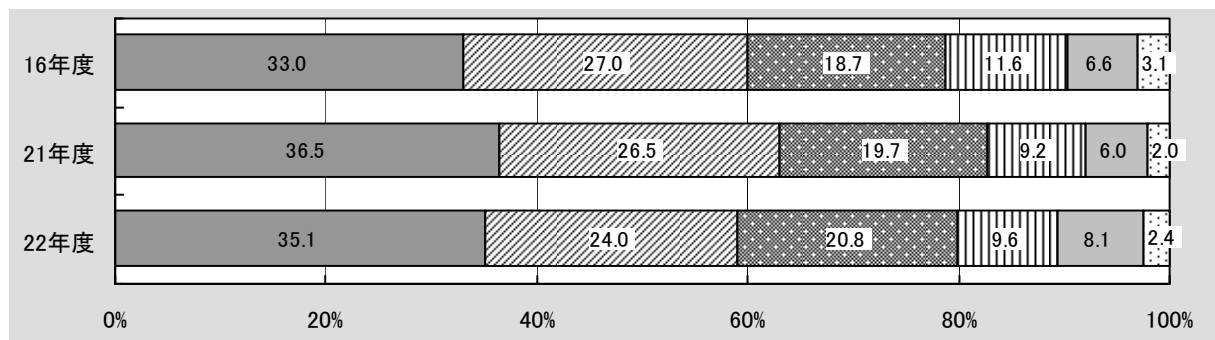


■ 廃棄物の減量化・資源化の推進

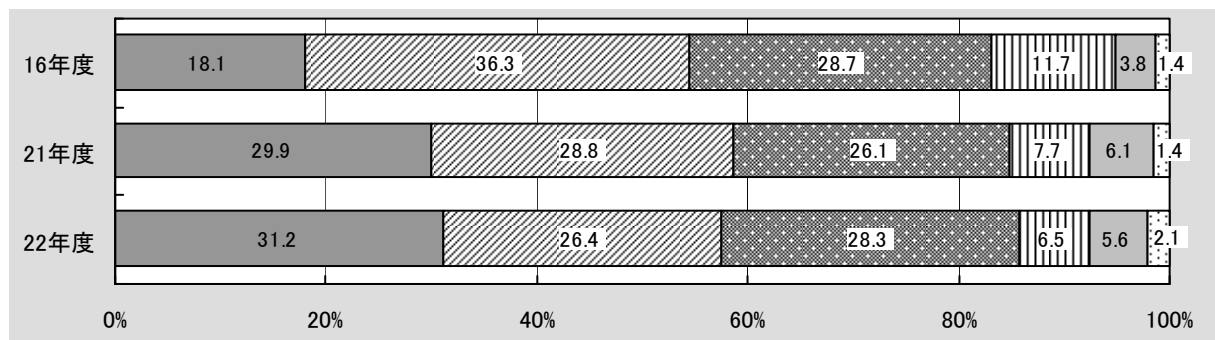
- 資料等は両面コピーで作成している



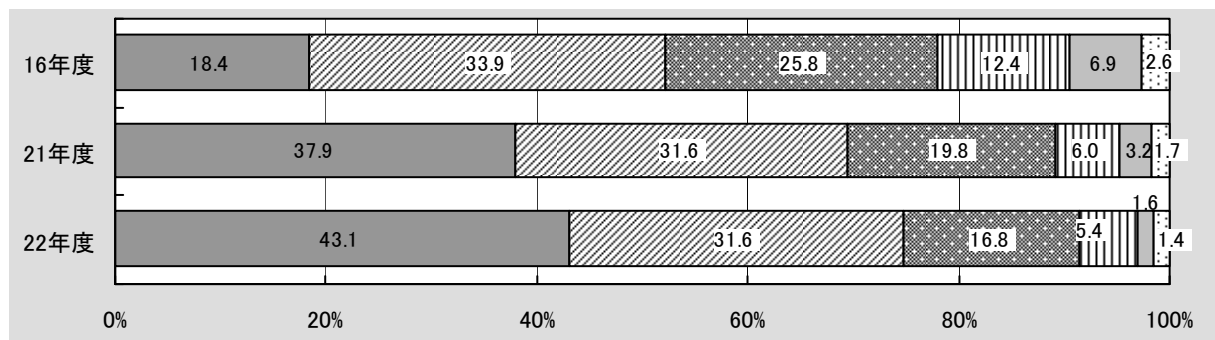
- 片面使用済み用紙の裏面をコピー用紙等として活用している

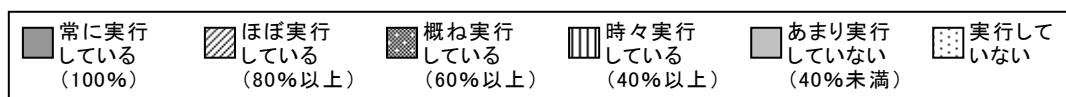


- 庁内情報システムを利用し、ペーパーレス化に努めている

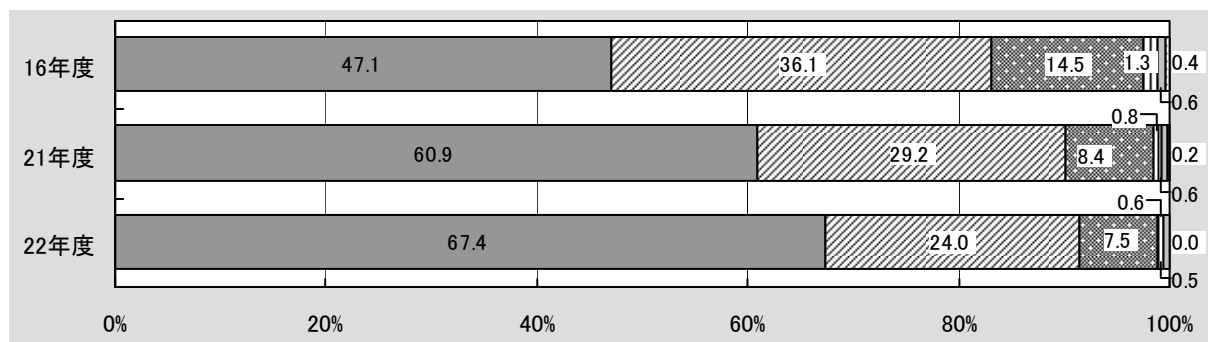


- 外部機関との事務連絡はできる限り電子メールを利用している

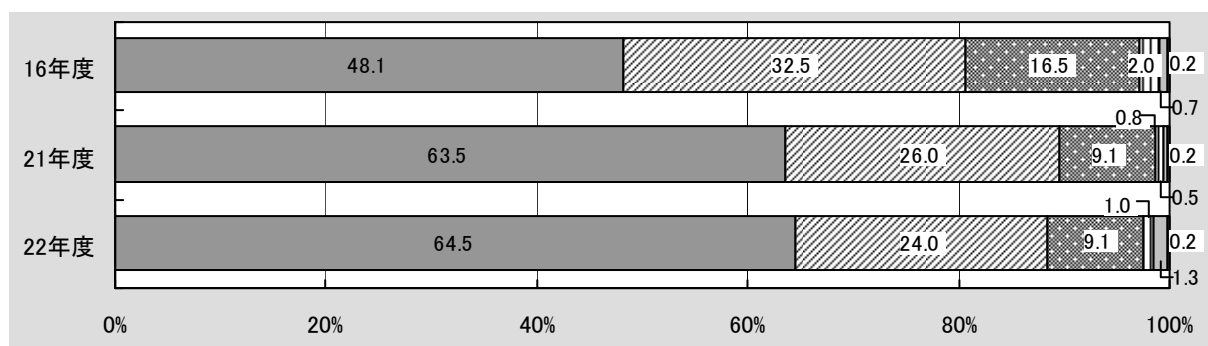




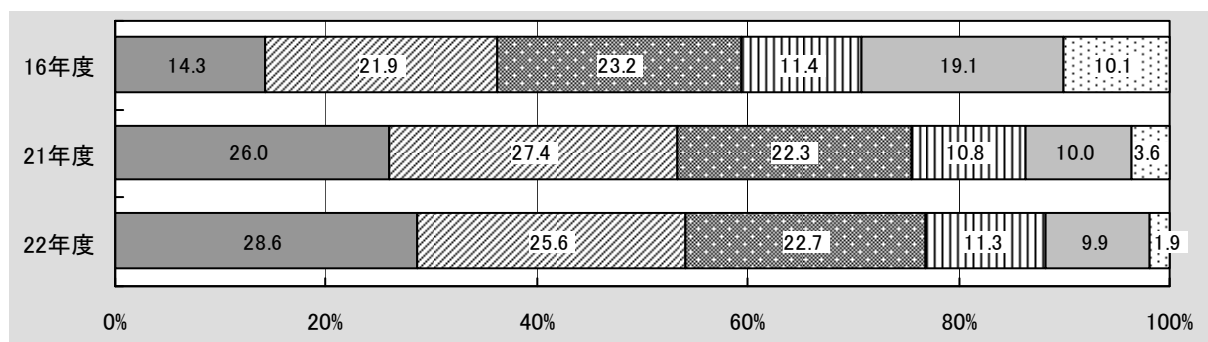
● ごみの分別を徹底している



● シュレッダーは秘密文書に限り使用している



● 割り箸、紙コップ等の使い捨て商品を使用していない



紙使用量の抑制やごみ分別に関する取組みは概ね向上傾向にあります。しかし、「割り箸や紙コップ等の使い捨て商品の使用自粛」や「庁内情報システムを利用し、ペーパーレス化に努める」など取組みが遅れているものもあり、ごみの発生抑制に対する意識の向上が求められます。